



東村山市子ども読書活動推進計画

(平成17年度～21年度)

進捗状況報告⑧ 『きょういく東村山』より

3～4か月児健診での読み聞かせ



赤ちゃんから絵本に触れる大切さを伝えたい

赤ちゃんが最初に受診する集団健診は、健康課が実施する3～4か月児健診です。毎回50組から70組の親子が受診します。

4月から、この健診会場で読み聞かせをし、保護者の方に絵本の大切さを伝える事業を図書館と健康課が連携して行っています。

以前から健診の中で保健師が、言葉の発達と絵本の関係についてお話したり、図書館で作成した絵本のパンフレットを配布したりしていましたが、この取り組みは、実際に赤ちゃんに読み聞かせを体験してもらうことによって、より絵本への興味と理解を深めていただくことが目的です。

絵本を読むと反応は様々

読み聞かせをするのは、昨年度育成講座を受講し、図書館の「子どもと本の人材バンク」に登録している「乳幼児への読み聞かせボランティア」の皆さんです。

健診を終えた親子にその都度声をかけて、ご案内を始めます。ソファに座ってもらい、絵本を読み始めると反応は様々。じっと絵を見つめる子、ページをめくる度にニコツとしてくれる子、中には足をバタバタさせて喜ぶ子もいます。そんな様子に、お母さんや付き添いのおばあちゃんが「こんなに小さくてもわかるんですね」と驚きます。

中には、ぐずってしまう子や眠ってしまう子もいますが、お母さんの方が絵本に興味を示してくださる場合が多く、ボランティアさんとの会話はずんずん進みます。

ボランティアさんも、若いお母さんやお父さんが懸命に子育てに取り組む様子や、生まれて数ヶ

月の赤ちゃんたちの輝くばかりのエネルギーに触れて元気をもらい、やりがいを感じてくださっています。

親子でおはなし会へ

読み聞かせが終わると、市内の図書館五館で0歳から利用カードが作れることや、乳幼児向けおはなし会を実施していることなどをご案内しています。

特に、0歳児・1歳児対象のおはなし会「赤ちゃん絵本ひろば」は、市民センターと本町児童館内で月1回ずつ実施しています。毎回たくさんの親子が参加してくれます。

「健診の時に読んでもらった本をお父さんが買ってきた」「初めて近くの図書館を利用した」という声を聞くと、絵本を楽しむ親子が増えていることを実感します。

今後とも、「子育て中にたくさん絵本と出会えるまち」を目指して、市民の皆さんの力を借りながら、図書館他関連部署で様々な事業に取り組んでいきます。

*平成21年度から乳幼児健診の担当所管は、子育て支援課になりました。

『きょういく東村山』第54号より

平成19年12月20日号

編集・発行 東村山市教育委員会